

清流通信 Shimantogawa Monogatari

四万十川物語

〈送信者〉

公益財団法人

四万十川財団

TEL : 0880-29-0200

FAX : 0880-29-0201

E-mail: office@shimanto.or.jp

第213章 通信日●2014年7月25日

梅雨も明け、いよいよ四万十にも夏がやってきました！週末は県内外からの遊泳客で早くも川は大賑わいです。四万十川財団もこの時期には、川でのイベントや学校での出前授業などをいつもより積極的に行っています。そこで、今月号は最近の川に関する当財団の活動を紹介したいと思います。



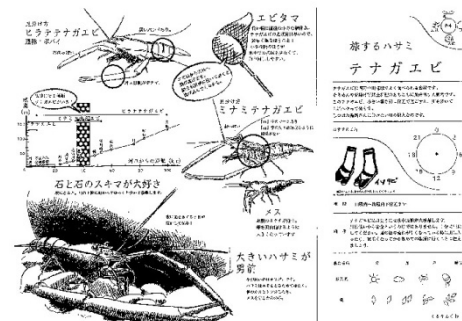
平成26年度 四万十川の日事業

「夏休み！泳いで遊んで四万十川はかせになろう！」

7月25日が四万十川の日であることにちなんで毎年実施している“四万十川の日事業”。高知県内の小学生とその保護者を対象に、遊びながらの体験を通して四万十川について学ぶイベントを企画しています。今年の舞台は四万十市の黒尊川。事前学習の後、川でエビ玉を使って生き物を捕まえたり、仕掛けておいた定置網を上げて生物観察を行いました。また、学習のまとめには「くろそん手帖」という地域の方々が作った手帖を利用して、それぞれが思い思いにまとめを行いました。

事前学習

魚と山の空間生態研究所の山下 慎吾氏を講師に迎え、四万十川に住む生きものや午後からの実習で観察できる生物についてクイズ形式で学習しました。テナガエビの見分け方も教えてもらい、早く川に行ってお実際に見てみたいと子ども達は大はしゃぎでした。



待ちに待った川での実習！

まずはエビ玉を使っての実習。自分達で泳ぎながら生きものを探し、素早くエビ玉で捕まえます。普段何気なく入っている川でもじっくり水の中を見てもみると、小さな小さなゴリの仲間から大きなテナガエビまで、本当にたくさんの生きものを見つけることが出来ます。たった1時間の実習で、小学生も大人も夢中になって生き物を捕まえ、大勢のエビ玉マスターが誕生しました！

エビ玉実習の後には定置網を上げて生物の種類分けと観察。エビ玉では捕まえられなかった大きな鮎やウグイ、カワムツなどを観察し、専門家をお招きしてだからこそその貴重な体験をすることができました。



くろそん手帖を利用したのまとめ

黒尊地区の方々が、多くの人に地域のことを知ってもらいたいと作成したくろそん手帖。黒尊川の地図を記載し、それぞれが好きなように使ってほしいと最低限必要な情報だけを載せたおしゃれな手帖を使ってまとめを行いました。手帖のアレンジもまとめの仕方個人におまかせ！以前からこの手帖をもっていた参加者は、My くろそん手帖に新たな思い出を増やしていきました。このイベントに参加した人だけがもらえるオリジナルシールもばっちり貼って、思い出の記録と学習のまとめを楽しみました。



全体を通して

昨年の反省を活かし、今年度はイベント中にしっかりまとめができるプログラムとしました。実習に向けた事前学習にかなりの効果があり、実習中に捕まえた生き物の名前を考えたり言い当てたりする様子が多くみられ、そのことがしっかりとまとめに繋がっていたと感じます。学年によって、夏休みの自由研究にしたり絵日記にしたりと長期休みの宿題のお手伝いもできたようです。

エビ玉マスターのおばあちゃんが「孫にエビ玉を買ってやらにゃいかんねえ」と話してくれたり、お父さんが「昔は自分もこうやって遊んだ。子どもにもきちんと教ええないかん！」と熱い意気込みを語ってくれたり、このイベントをきっかけに“子どもを川に連れて行ってやりたい”と感じた保護者の方がおられたことも、我々にとって大きな成果となりました。



学校で川の先生をしてきました！

7月中に3校・合計4回、学校の先生となって子ども達に四万十川について教える時間をいただきました。内1回はCODパックテストを使って、3回は水生生物を指標にして四万十川の水質について授業・調査を行いました。

パックテストでは化学的酸素要求量を調べることができ、その値が大きいほど水中の汚れ（有機物）が多いとされています。ちなみに、毎年測定している結果では四万十川での測定値は0～1となっていますが、この値が5を超えると生物にとって生きていくことが大変難しくなってしまいます。今回小学校で行った実験は、すぐそばを流れる四万十川から採取した2ℓの水A・Bをパックテストで調べるというものでした。見た目には全く同じ水なのに、なぜかCODの値が異なります。Aはほぼ0なのに、Bは35という結果に。Bにはきっと何かが入っている！ということになり、ここでネタばらし。実はBには川の水2ℓに対して、グレープフルーツジュースを数滴だけ混ぜていました。たった数滴のジュースで生物が住めなくなる水になってしまうのです。これには児童も先生も大変驚いており、でも洗濯もするしお掃除もするし、どうすれば川を汚さないで済むのかと頭を悩ませ、今後の課題としたところで授業を終えてきました。

水生生物を指標とした調査では、川虫を探してその種類やスコア値等によって水質を調査します。スコア値の大きな川虫ほどきれいな水が好きな虫ですが、四万十川には一体スコア値いくらの虫が何種類くらい住んでいるのか。実際に川に入って、網を使って石をめくりながら調べました。最初は虫なんてそんなにたくさんいないだろうと思っていたようでしたが、石をめくればびっくりするくらいの川虫が。ついでに川魚を捕まえたり泳いだりしながら、楽しく調査を行いました。結果は、四万十川にはスコア値満点に近い虫がたくさんいるということで、四万十川ってこんなにきれいだったんだ！ということを確認してもらえたようです。

今後もしろんなところで環境学習のお手伝いをしていきたいと思いますので、お気軽にお声掛けください！

